

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホーム うの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	平成30年1月18日	評価結果市町提出日	平成30年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470301090-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 2 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歌人佐々木信綱生誕の地で、唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花の垣根」に囲まれた明るい広々とした平屋建ての施設です。庭には緑があふれ、実のなる木が植えてあり、四季の移り変わりが楽しみでもあります。運営母体である「医療法人ほうしょう会 朝川クリニック」が常にご入居者様の健康管理をおこなっています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応も万全です。ご縁をいただいたご入居者様は、ご希望により、終末まで対応させていただいています。ご入居者様、職員は和気あいあいと、とても明るく、法人理念である「人生の先輩として尊敬の念を持ち、安堵安心を捧げ、真心をもって接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念とは別に新しい管理者と職員で考えた事業所独自の理念、「笑顔で作る 優しさの輪」として3つの「お約束」を作った。いつも笑顔を決やらず利用者の日々のケアに取り組んでいる。代表者が医師で24時間往診や指示を仰ぐなど、緊急対応が万全で利用者・家族は安心して過ごすことが出来る。また、事業所自体が地域に溶け込んでおり、地域関係者とのコミュニケーションを大切に信頼される支援を実践している。夜間の防災訓練は地域の協力なくては出来ない訓練であるが、近隣住民の協力で実行し、利用者全員を避難する工夫が多くある。事業所から地域住民へのサービス提供、および地域の方々より協力が継続して得られるようにと常に考えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人理念である『人生の先輩としての尊敬の念をもち、安堵安心を捧げ、真心をもって接する』を事務所内に掲げ、毎朝朝礼時に職員全員で唱和し、その理念に沿ったサービスを日々実践している。	法人の理念とは別に、職員間で考えた理念「笑顔で作る やさしさの輪」として3つの御約束を事務所内に掲げ、笑顔を絶やさないように常に意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており役員の方が定期的に広報誌等を届けてくださっている。その際に情報交換をおこない、地域のお祭りに参加したり、毎年恒例の獅子舞保存会や子供神輿の来訪は皆さまが参加し喜ばれている。又、ボランティアの演奏会等も楽しみにしている。	自治会長はじめ近隣住民との付き合いも深く、地域の活動や行事には利用者と共に参加している。毎年恒例の子供御輿の来訪時は、子供達に渡すお菓子の袋入れが楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方に対してのケアにおける助言等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに実施している会議ではグループホームでの日々の取り組みやサービスの内容を説明し意見交換をおこなっている。防災についての議案では防災頭巾についてアドバイスいただき、ミニ座布団を使った防災頭巾を作成し、防災訓練に使用した。	年6回開催し、行政・家族代表・民生委員・自治会長・老人会長・地域住民など、多数の参加で毎回多くの意見交換が行われている。頂いた助言などは即、サービス向上に活かされている。一目瞭然の議事録は家族にも配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様が無断外出されてしまい、地域の方の協力により警察に保護していただいた件では、ケアサービスの困難事例として地域包括支援センターへ報告し、今後のサービスについて関係者とカンファレンスをおこない、その中で情報やアドバイスをいただけた。	運営推進会議に参加してもらったり、解からないことがある場合には、その都度、相談に乗ってもらい助言を頂いたり日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に該当するかを示した「身体拘束マニュアル」を作成し、現任研修、新任研修で「身体拘束」について学び、「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。本年度は、より理解を深めるためにDVDを使用した研修をおこなった。	何が身体拘束に該当するのか職員研修(DVDを見ながら)をして、レポートを提出してもらい理事長まで届くルートが出来ている。言葉の拘束についても管理者が現場に即するように作り、職員間で話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務改善会議において『スピーチロック』について学ぶ機会をもうけるなど虐待をしないケアとはどういうものかの啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の状態の悪化により成年後見人制度の活用が必要となられ、関係者との連絡を密にし利用者の権利擁護が適切になされるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を提示して説明し、充分考慮していただいているから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へは随時、家族へは来所時やケアプラン説明時に要望・意向など、うかがっている。また毎月のお便りに気軽に来所し意見を発信していただけるよう呼び掛けている。	利用者・家族からの運営に関しての声が出やすい環境作りが大切との思いから「家族交流会」をした。運営推進会議にも参加し、多くの意見や要望(買い物同行・受診付添い・趣味の件など)を聞く機会を得、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の業務改善会議のほか業務の中で生じた職員の意見を管理者がくみとり、毎週の理事同席の会議などで報告、善処している。	管理者は職員の気づきや要望を記入した「リクエストシート」を基に吸い上げ、毎週、上司に報告している。利用者・職員のケア問題から畳ベットの電動ベットに変更するなど、管理者は常に職員の声に耳を傾けている。	管理者として職員に対する指導や職員からの更なる提案が運営に反映できるように、個人のスキルアップを図ると共に、事業所として利用者に対する支援の質の向上に繋げる工夫が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は1名が介護支援専門員の資格を取得した。又、1名が介護福祉士を受験する。それぞれ目標を持ちながら就業している。代表者は人事考課を年2回実施し職員個々の努力や実績を反映させ職場の「やる気」に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会の案内を事業所に掲示し、職員が積極的に参加するようながしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修会での交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会にて困りごとや意向などの聞き取りを行うと同時に言葉遣いやノンバーバルコミュニケーションに留意しアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会において困りごとや意向の聞き取りを行うとともに、入所之际して後ろめたさを感じておられる家族には少しでも心の負担が軽くなるような言葉かけを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関しては本人と家族との意向が合致していないケースがほとんどであるため、在宅生活が続けられる様々なサービスの活用等の提案も行ったうえで入所の判断をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様を「支援の必要な人」としてではなく唯一無二の人としてとらえ長所を生かした役割を持っていただき、「世話になっている」といった負担を持たれないよう配慮を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所されたときや毎月のお便りを通じて利用者の身体状況・生活状況を伝えている。また体調の急変時には速やかに連絡させていただき情報を共有することで共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方の来所時に髪を切っていただく方がおられる。また以前より利用されていた美容院へ娘様と出かけられたり息子様の送迎で姉妹のお宅へ出かけられたりされる方もいらっしゃる。	日々の会話の中から馴染みの人や場所を聞いて、関係が継続出来るように支援している。家族や知人の訪問時には利用者宛に、その時の状況を日記形式で書いてもらい、手紙として後日、読み返すことが出来る優しい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し必要に応じて職員が間をとりもったり、席替えを行うことでご利用者様同士が良好な関係を保てるよう、また孤立する方がないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	容体悪化のため病院へ入院された利用者の今後について、家族の意向をうかがいつつ主治医の意見など参考に様々なサービスの活用の提案を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の表出をされないご利用者様がほとんどであるが、日々の行動や発言を記録に残し希望や意向の把握に努めサービスの検討をおこなっている。	入浴時や就寝前にゆっくり話す時間を持っている。一人ひとりへの声掛けや一寸した仕草からも気づきを知り、支援経過に記入し、利用者の思いを感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や暮らし方、介護が必要になってからの暮らし方について伺い記録している。日々の生活の中で聞き取ったことや家族のお話内容から馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個別記録、バイタル測定、食事摂取量などの記録より体調を含めた現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の個別記録よりモニタリングチェックを行い適時カンファレンスを実施、ケアプランを作成、3か月に一回の計画の評価、6か月に一回の計画の見直しと更新を行っている。	毎日の個別記録票と家族訪問時や電話での話し合い、職員も含めてカンファレンスを実施している。3か月ごとの評価や6か月ごとの見直しを行うと共に、状態に変化があれば随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録より様子見の継続が必要な件は連絡日誌にて特記事項とともに申し送り職員間で情報を共有し介護サービスの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者の家族より毎日決まった時間に電話をかけていただいていたら訴えが減った。よく車で出かけておられた利用者を折をみてドライブにお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	頻繁な外出は体調面からも難しい状況であることよりボランティアの来所、催しにより楽しみを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、当法人の理事長である医師が主治医として定期的に健診、健康管理を行っている。専門外の病院受診の際はご家族様の協力を依頼しつつ柔軟に対処、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員がかかりつけ医(理事長)であり、月2回の往診がある。専門外の受診は家族の協力及び職員の同行・付き添いなどの支援で、常に適切な医療を受けられる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるため、医療面は当法人の理事長である主治医に相談、指示のもと適切な受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはその利用者の基本情報と施設でどのように暮らされていたかを記した介護記録情報を作成して病院スタッフに渡している。入院中は医師や病院スタッフから情報収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談の時点で当施設の終末期に向けた取り組みを示した書類を提示して説明をしている。入居者の家族に対しては終末期には再度確認しケアプランの見直しを行うこととしている。	医療と家族と連携を取りながら2名の看取りをした。重度化した場合の支援については、その都度家族と話し合っている。職員教育としてDVDを見ながら医師の話聞き、不安軽減に対する取り組みを継続している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務改善会議のときなど利用して応急手当など急変時の対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立会いのもと夜間の避難訓練を実施した。運営推進会議の時間を利用し行ったことで自治会長他近隣住民の方の参加もあり今後の協力体制の強化につながった。	年2回、消防署の指示の下、防災訓練をしている。今回は夜間の避難訓練を運営推進会議の出席者と共に行った。排煙窓の操作や利用者(車いす利用者含む)の誘導方法など、多くの事を学び、次回の改善策となった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室ドアのガラスはすりガラス状に細工し外から中の様子が丸見えにならないよう配慮している。理念に基づき言葉かけや対応にも敬いの気持ちをもって行うよう気を配っている。	利用者のベットの位置により、部屋の中が外から見えないようにシールを張ってプライバシーの確保に配慮している。また、日頃から利用者の人格を尊重した声掛けや対応を心がけて実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけに対する反応や様子を確認し、利用者の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様 一人ひとりのその日の体調には気を配りつつ、どのように過ごしたいのか本人の発言や態度をよく観察してその人らしい暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後には清潔に努めるとともに季節感のある衣類を着ていただけるよう支援している。寒がりであったりこだわりで重ね着をされ違和感がある場合は柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操や歌を歌うことで美味しく召し上がっていただけるよう取り組んでいる。食事中には穏やかな音楽をながすことでゆったりとした気分で召し上がっていただけるよう支援している。	デイの栄養士のメニュー(カロリー計算)を参考に、毎食とも職員の手作りである。利用者の体調や好みに合わせて食事形態を変えたり、テレビで音楽を流すなどして食事が楽しみとなる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医より水分制限や食事制限の必要な方は職員が管理している。一人ひとり摂取量をチェック、記録し著しく摂取量が変化した場合などは主治医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと就寝前には義歯のポリデント洗浄を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録より排泄パターンを把握しトイレ誘導を実施している。現在日中紙オムツ使用されているのは便器で座位を保つことが困難な利用者一人であるが、下剤使用時には二人介助でトイレを使用している。	排泄記録票を参考に一人ひとりのパターンを把握し、声掛けや誘導をして排泄の自立支援を行っている。特に下剤使用者は気を付けて見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供したり水分が不足しがちの利用者には水分摂取量を把握して摂っていただくよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	疲れやすく午前中のほうが比較のお元気な利用者には午前中に入っていたり、入浴拒否の強い方には随時声をおかけして気がかわらないうちにすぐに入っていたりよう手配したりと柔軟に対応している。	週2回入浴を基本としている。一人ずつ湯を入れ替えて、入浴剤や好きな音楽を流しながら、健康状態に合わせてゆっくり入ってもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や近々の状況を職員間で情報を共有し、安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬がなされるよう服薬管理を行っている。個人別の薬庫の棚に処方されている薬の処方箋のファイルを開覧できるよう設置し薬の目的や副作用、用法・用量が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の若かりし頃にヒットした映画のDVDの上映会、懐かしい歌と一緒に歌う歌の会などは全員楽しめる余興として行っている。他運動会やクリスマス会などのイベントも時期に応じて楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の送迎で姉妹のお宅へ連れて行っていたり、娘さんと一緒に出掛けられたりされる方などいらっしゃる。車でのお出かけがお好きな方は時々職員とドライブへ。他の利用者も花見など景色を楽しむ外出支援を行っている。	事業所専用の車の購入で、花見や買い物など個別対応の支援も出来るようになり、ドライブでの外出が多くなった。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や、前の畑で野菜の収穫などで外気浴をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている利用者はおらず必要なものは家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をかけたり手紙を出したいとおっしゃる利用者が現在はいませんが、もし今後要望があれば柔軟に対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりのよいリビング、天窓と自然採光に恵まれた造りで明るい雰囲気のある生活空間がある。季節感のある壁画、ゆったりした動線確保したテーブルの設置、ご家族様と一緒に腰かけて話をする事が可能なソファを置いたりなどの工夫をしている。	日当たりのよい居間兼食堂には畳の間があり、利用者がのんびりと寛げる場所となっている。広い廊下は天窓からの採光で明るい。また、天窓の開閉で防災の役目を担っている。壁には利用者の特技を生かした四季の手作り作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士での配慮より時々見直しつつ指定席を設けているが、長椅子やソファ、畳などの備えで思い思いに過ごしていただける工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体状況より電動ベッドを購入、寝起きが楽に行えるようになった。家具などは馴染みのものを持ちこんでいただき本人が居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	クローゼットを兼ねた大きな押入れ、掃出しのある大きな窓、利用者の身体状況や職員の介護方法も視野に入れた電動ベット、大好きな椅子とテーブルで本を読むなど使い慣れた物ばかりで居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりは自力ながら不安定な歩行をされる利用者が安全に自立した生活を送れるように、また認知機能が衰えた利用者のためトイレや居室の場所の掲示を工夫している。		